

科目名	アルゴリズムⅡ					
科目名(英)	algorithmⅡ					
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	基本情報技術者試験のアルゴリズムの問題をとけるようにするために 基本的なアルゴリズムからSTEP UPしながら学んでいく					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					配列操作ができる。
	○					基本アルゴリズムを理解し、実践できる。
	○					文字列操作ができる。
	○					問題解決向きデータ構造が扱えるようになる。
○					数学的なアルゴリズムが理解し、実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	基本情報 STEP UP演習 アルゴリズム対策					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	配列操作 1次元配列の基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	配列操作 順位付け処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	配列操作 2次元配列の基本操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	配列操作 配列を利用した図形処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	配列操作 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	6	基本アルゴリズム 線形探索法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	基本アルゴリズム 二分探索法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	基本アルゴリズム 基本選択法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	基本アルゴリズム クイックソート			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	基本アルゴリズム 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	11	文字列操作 文字列の比較			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	文字列操作 文字列の転記			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	文字列操作 文字列の圧縮/復元			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	文字列操作 ボイヤ・ムーア法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	文字列操作 文字列操作 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	16	問題解決向きデータ構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	問題解決向きデータ構造 スタック			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	問題解決向きデータ構造 木構造(二分探索木)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	問題解決向きデータ構造 木構造(ヒープ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	問題解決向きデータ構造 ハッシュ法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	問題解決向きデータ構造 演習			授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと	
	22	数学的アルゴリズム 数値と文字の変換			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	数学的アルゴリズム 実数計算			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	24	探索アルゴリズム BNF記法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
25	探索アルゴリズム 逆ポーランド記法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		

	26	探索アルゴリズム 演習	授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと				
	27	その他のアルゴリズム ファイル処理	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	28	その他のアルゴリズム 法則性の発見	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	29	その他のアルゴリズム バックトラック法	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	30	その他のアルゴリズム 演習	授業内容に係る確認テストを実施するので復習しておくこと				
	31	基本情報過去問 H30 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	32	基本情報過去問 H30 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	33	基本情報過去問 H29 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	34	基本情報過去問 H29 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	35	基本情報過去問 H28 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	36	基本情報過去問 H28 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	37	基本情報過去問 H27 秋期	今までの学習内容について復習しておくこと				
	38	基本情報過去問 H27 春期	今までの学習内容について復習しておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)模試を数回実施する。(3)定期試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
	小テスト		○				30%
	模試		○				20%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	テクノロジー技術					
科目名(英)						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	新納 美佳、松尾 康徳	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当(全員)	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	基本情報技術者試験合格を目標に、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、セキュリティ、データベース、プログラム設計の分野(テクノロジー分野)の演習を行っていく。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				コンピュータのテクノロジー分野を学習し、基本情報技術者試験の午後問題の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報STEPUP演習 知識応用編 基本情報技術者試験問題集					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-1(セキュリティ分野)			午前問題の見直しをしておくこと	
	2	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-2(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	3	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-3(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	4	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-4(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	5	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-5(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	6	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-6(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	7	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-7(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	8	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-8(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	9	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-9(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	10	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-10(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	11	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-11(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	12	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-12(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	13	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-13(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	14	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-14(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	15	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-15(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	16	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-16(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	17	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-17(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	18	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-18(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	19	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-19(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	20	基本情報STEPUP演習 知識応用対策-20(ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	21	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	22	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	23	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
	24	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと	
25	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)			前回の授業の復習を必ずしておくこと		

	26	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	27	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	31	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	32	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	33	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	34	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	35	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	36	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	37	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	38	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	39	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	40	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	41	基本情報技術者試験 過去問題(セキュリティ分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	42	基本情報技術者試験 過去問題(ハードウェア/ソフトウェア分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	43	基本情報技術者試験 過去問題(ネットワーク分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	44	基本情報技術者試験 過去問題(データベース分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
	45	基本情報技術者試験 過去問題(ソフトウェア設計分野)	前回の授業の復習を必ずしておくこと				
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)模擬試験(本番試験の形式)を3回実施する。(2)筆記式の定期試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験3回	○	○				50%
	定期試験	◎	◎				50%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	Java II					
科目名(英)	Java II					
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	矢鳴 信輔	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	オブジェクト指向の三大要素である、クラスの継承・カプセル化・多態性を理解する。 コレクションやストリームなどのクラスの利用方法や例外処理を習得する。 基本情報技術者試験の過去問を活用して、プログラムの読解力を身につける。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				オブジェクト指向三大要素、継承・カプセル化・多態性を理解し、実践できる。
	○	○				コレクションを理解し、プログラム内の効率的なデータ管理ができる。
	○	○				ストリームを理解し、データの入出力を実装したプログラムを作成できる。
	○	○				プログラムの読解力を高め、基本情報技術者試験に合格する。
テキスト・教材 参考図書	Javaプログラミング(株式会社インフォテック・サーブ) 基本情報 STEP UP 演習 Java対策(株式会社インフォテック・サーブ)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	参照型の一次元配列			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	ArrayListクラス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	継承			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	サブクラスの定義とインスタンス化			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	メソッドの再定義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	super()			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	インタフェースとは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	インタフェースの拡張			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	ポリモフィズムとは?			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	ポリモフィズムの実現			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	演習1 継承 - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	12	演習1 継承 - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	13	演習2 ポリモフィズム - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	14	演習2 ポリモフィズム - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	15	演習3 インタフェース - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	16	演習3 インタフェース - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	17	演習4 拡張for文 - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	18	演習4 拡張for文 - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	19	演習5 コレクション① - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	20	演習5 コレクション① - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	21	演習6 コレクション② - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	22	演習6 コレクション② - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	23	演習7 コレクション③ - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
	24	演習7 コレクション③ - 2			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事	
25	演習8 コレクション④ - 1			これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事		

	26	演習8 コレクション④ - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	27	演習9 メンバークラス - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	28	演習9 メンバークラス - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	29	演習10 特殊なメソッド - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	30	演習10 特殊なメソッド - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	31	演習11 例外処理 - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	32	演習11 例外処理 - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	33	演習12 スレッド - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	34	演習12 スレッド - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	35	基本情報技術者試験 過去問 ① - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	36	基本情報技術者試験 過去問 ① - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	37	基本情報技術者試験 過去問 ② - 1	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
	38	基本情報技術者試験 過去問 ② - 2	これまで学習してきた内容をしっかり復習しておくこと 分からないところは必ず質問し解決する事				
評価方法	(1)定期試験 (2)演習を課題とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	演習課題		◎		○		30%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験講座 I (春向) 応用情報技術者試験対策					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	R03秋午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R03秋午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	3	R03秋午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	4	R03秋午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	5	R03秋午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	6	R03春の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	7	R03春の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	8	R03春の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	9	R03春の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	10	R03春の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	11	ミニテスト(R03秋R03春の問題)			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	12	R02秋の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	13	R02秋の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	14	R02秋の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	15	R02秋の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	16	R02秋の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	17	ミニテスト(R02秋の問題), 午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	18	R03秋の午後問題の問1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	19	R03秋の午後問題の問3を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	20	R03秋の午後問題の問4を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	21	R03秋の午後問題の問5を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	22	R03秋の午後問題の問6を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	23	R03秋の午後問題の問7を解き、解説-6			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	24	R03秋の午後問題の問8を解き、解説-7			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
25	R03春の午後問題の問1を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		

	26	R03春の午後問題の問3を解き、解説-2	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	27	R03春の午後問題の問4を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	28	R03春の午後問題の問5を解き、解説-4	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	29	R03春の午後問題の問6を解き、解説-5	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
	30	R03春の午後問題の問7を解き、解説-6	授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で模擬試験を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	模擬試験	◎	◎				40%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						



科目名	情報処理試験講座 I (春向) ITパスポート試験対策					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	新納 美佳、矢鳴 信輔、石田 典雅	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当(全員)	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	ITパスポート試験合格を目標に、ストラテジ分野、マネジメント分野、テクノロジー分野の学習を行っていく。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				ストラテジ分野、マネジメント分野、テクノロジー分野を学習し、ITパスポート試験試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	でるとこだけ！ITパスポート2021年版(翔泳社) ITパスポート試験過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-1	テキストの「ITパスポートの概要」を読んでおくこと			
	2	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	3	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	4	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	5	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-5	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	6	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-6	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	7	ITパスポート試験 過去問対策(R01年秋)-7	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	8	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	9	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	10	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	11	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	12	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-5	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	13	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-6	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	14	ITパスポート試験 過去問対策(R01年春)-7	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	15	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	16	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	17	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	18	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	19	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-5	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	20	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-6	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	21	ITパスポート試験 過去問対策(H31年秋)-7	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	22	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	23	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
	24	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと			
25	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				

	26	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-5	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	27	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-6	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	ITパスポート試験 過去問対策(H31年春)-7	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	ITパスポート試験 過去問対策(eラーニング,R01年春秋)	H30年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	30	ITパスポート試験 過去問対策(eラーニング,R01年春秋)	H29年度の問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理活用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	北島 正幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	OAインストラクタとしてセミナーを担当		
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	・MOS Excel2019の受験対策						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				表の作成や表の書式設定、関数の使用方法、データ管理などのExcelの機能を習得し、実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	・よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019対策テキスト&問題集(FOM出版) ・対策プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Excel復習 基本操作、データ入力				事前にWindowsの操作方法を自習しておくこと	
	2	Excel表作成①、データ入力				前回の授業の復習をしておくこと	
	3	Excel表作成②、データ入力・編集				前回の授業の復習をしておくこと	
	4	Excel表作成③、数式入力				前回の授業の復習をしておくこと	
	5	Excel表作成④、関数				前回の授業の復習をしておくこと	
	6	Excel表作成⑤、関数				前回の授業の復習をしておくこと	
	7	Excel表作成⑥、関数				前回の授業の復習をしておくこと	
	8	Excel表作成⑦、関数				前回の授業の復習をしておくこと	
	9	Excelデータベース機能①				前回の授業の復習をしておくこと	
	10	Excelデータベース機能②				前回の授業の復習をしておくこと	
	11	Excel 総合演習①				前回の授業の復習をしておくこと	
	12	Excel 総合演習②				前回の授業の復習をしておくこと	
	13	Excel 総合演習③				前回の授業の復習をしておくこと	
	14	Excel 総合演習④				前回の授業の復習をしておくこと	
	15	Excel 総合演習⑤				前回の授業の復習をしておくこと	
	※授業内容は、4月1日時点での復習						
評価方法	(1)MOSExcel2019を受験する。(2)授業中の平常点(授業態度)を採点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	MOS2019		◎				80%
	平常点(授業態度)		○				20%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Java演習						
科目名(英)	Java exercise						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢鳴 信輔		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	Javaを使用して、仕様に基づいたコンソールで動作するプログラムを作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				仕様に基づいたプログラムをJavaを使用して作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	基本情報 STEP UP 演習 Java対策(株式会社インフォテックサーブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	演習課題 - 1			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	2	演習課題 - 2			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	3	演習課題 - 3			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	4	演習課題 - 4			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	5	演習課題 - 5			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	6	演習課題 - 6			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	7	演習課題 - 7			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	8	演習課題 - 8			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	9	演習課題 - 9			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	10	演習課題 - 10			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	11	演習課題 - 11			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	12	演習課題 - 12			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	13	演習課題 - 13			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	14	演習課題 - 14			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
	15	演習課題 - 15			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習課題の提出状況および完成度にて評価</li> <li>・完成度に応じて採点し、提出状況による平常点と合計し、以下の基準にて評価</li> <li>・S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題提出状況		○		○		30%
	演習課題完成度		◎		◎		70%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	SQL I						
科目名(英)	SQL I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松尾 康徳		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	Oracle Databaseは、メインフレームからパーソナルコンピュータまで幅広いプラットフォームをサポートしているデータベースである。IT業務においてもSQLの知識は必須とされ、中でもOracleに特化したSQL文法は業務において頻出である。本講義においては、リレーショナル・データベースとは何か、またそれと通信するSQLの中のSELECT文についての機能を学び、その習得を目指す。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Oracle10gの概要を理解し説明できる。	
	○					リレーショナル・データベースの概要を理解し説明できる。	
		○				SELECT文を使用して目的のデータを取得することができる。	
		○				関数を使用した高度なデータ取得を行うことができる。	
	○				結合・副問合せを使用した高度なデータ取得を行うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	イントロダクション - Oracle 10g / リレーショナル・データベース				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	SQLのSELECT文を使用したデータの取得 - 基本的なSELECT文				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	SQLのSELECT文を使用したデータの取得 - SQLとiSQL*Plus				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	データの制限およびソート - WHERE句、BETWEEN条件				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	データの制限およびソート - IN/LIKE/NULL条件/ORDER BY句				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	単一行関数を使用した出力のカスタマイズ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	グループ関数を使用した集計データのレポート -1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	グループ関数を使用した集計データのレポート -2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	複数の表のデータの表示 - 自然結合				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	複数の表のデータの表示 - 非等価結合・外部結合				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	複数の表のデータの表示 - デカルト積				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	副問合せを使用した問合せの解決 - 副問合せ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	副問合せを使用した問合せの解決 - 単一行副問合せ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	集合演算子の使用 -1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	集合演算子の使用 -2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(ミニテスト)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Visual C# I					
科目名(英)	Visual C# I					
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	石田 典雅	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	官公庁でのICT支援員	
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年					
授業概要	現在ではMac OS、スマートフォンのiPhone(iOS)やAndroidアプリ、Webアプリケーションの開発もできるようになり、汎用性の高い高級言語となったC#であるが、今回の授業では全く.NET Frameworkでの開発の経験がない学生を対象にWindowsアプリケーション開発を可能になることを目的とする。					
授業形式	講義: <input type="checkbox"/>	演習: <input type="checkbox"/>	実習: <input type="checkbox"/>	実技: <input type="checkbox"/>	※ 主たる方法: <input type="checkbox"/> その他: <input type="checkbox"/>	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	<input type="checkbox"/>					C#の処理、文法について理解し、作成できる
		<input type="checkbox"/>				コントロールを利用してWindowsフォームアプリケーションを作成する
		<input type="checkbox"/>				クラスを利用して構造化したプログラムを作成する
テキスト・教材 参考図書	作って覚える Visual C# 2019 デスクトップアプリ入門 (秀和システム)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	Windows用アプリケーションの特徴			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	Visual Studio 2019の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	オブジェクト指向プログラミングの考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	プログラム作成の基本 ①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	プログラム作成の基本 ②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	プログラム作成の基本 ③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	演習課題 ①			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事	
	8	「タイマー」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	「付箋メモ」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	「今日の占い」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	「間違い探しゲーム」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	「簡易Gmailチェッカー」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	「Slack投稿」アプリの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	「間違いボール探しゲーム」の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	演習課題 ②			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事	
	16	デバッグモードで動作を確認する			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	「簡易家計簿」を作成する ①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	「簡易家計簿」を作成する ②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	「簡易家計簿」を作成する ③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	「簡易家計簿」を作成する ④			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	「簡易家計簿」を作成する ⑤			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	「簡易家計簿」を作成する ⑥			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	演習課題 ③			課題の進捗が遅い場合は授業外に進めておく事	
(1)定期試験(演習)を実施する。(2)演習課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	演習課題		◎		○		20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	佐藤 智子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	社会人として必要な一般教養のうち、ITエンジニアとして特に重要な数学、国語、社会の知識を習得する。数学は中学卒業レベルの全範囲、国語は高校卒業レベルの読み書きと、就職試験に頻出されることわざ、熟語、文章読解、社会は重要時事用語について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					中学数学の全範囲(数式と計算、方程式、関数、図形)のうち、7割以上の範囲を問題を自力で解くことができるようになる。	
	○					就職試験頻出の漢字の読み書き、SPIレベルの文章読解のうち、7割以上を自力で正解を導くことができるようになる。	
	○					テキストの重要時事用語(約50語)について理解し、活用できる。	
テキスト・教材 参考図書	一般教養ミニテスト2020 実用数学検定3級過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	数学(計算問題) 国語(漢字読み書き)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	2	数学(方程式と関数) 国語(漢字読み書き、同音異義語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	3	数学(文章題) 国語(漢字読み書き、慣用句)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	4	数学(文章題) 国語(漢字読み書き) 社会(重要時事用語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	5	数学(文章題) 国語(漢字読み書き)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	6	数学(図形) 国語(漢字読み書き、慣用句)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	7	数学(図形) 国語(漢字読み書き、同音異義語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	8	数学(確率) 国語(漢字読み書き) 社会(重要時事用語)			時間内に理解できなかった点は復習し習得する。		
	9						
10							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テスト	◎	○				50%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	ビジネス実務						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	青柳 七重		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	フリーランスとして 中日実務翻訳20年(中国語通訳案内士)		
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	B検ジョブパス3級の合格を目標とし、就職活動に必要な文章力(自己PR, 志望動機)や日本語の常識的な知識を身につけさせる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				B検ジョブパス3級の合格を目標とし、就職活動に必要な文章力を見につけ、活用できる。	
テキスト・教材 参考図書	B検ジョブパス3級の過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	B検ジョブパス検定過去問(R02後期)			ビジネス検定の概要について調べておくこと。		
	2	B検ジョブパス検定過去問(R01後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	3	B検ジョブパス検定過去問(H30後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	4	B検ジョブパス検定過去問(H29後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	5	B検ジョブパス検定過去問(H28後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	6	B検ジョブパス検定過去問(H27後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	7	B検ジョブパス検定過去問(H27前期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
	8	B検ジョブパス検定過去問(H26後期)			前回解いた問題を復習しておくこと		
評価方法	(1)B検ジョブパス検定を受検する。(2)授業中の過去問を平常点とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	B検定ジョブパスの受検	◎	◎				80%
	授業中の過去問(平常点)	○	○				20%
履修上の注意	出席が全体の2/3に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	GCB I					
科目名(英)	Global Citizen Basic I					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	矢鳴 信輔	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	コンピュータシステム 1年					
授業概要	「感謝と思いやり」をテーマに週2回のペースで全8コマの講義を受講。 当校で得た知識技能を実社会で存分に発揮すると同時に、人との関わり合いの中で円滑なコミュニケーションを図れることを目標とする。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○				コミュニケーションをとる上での注意点を理解し、活用できる。
				◎		実生活の中で実践する。
テキスト・教材 参考図書	GCB I 専用テキスト					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	2	「協働」の態度を持った学生生活			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～マナーの重要性			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	4	マナーの本質 I			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	5	マナーの本質 II			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	6	グローバルシティズンとしての日常			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	7	「感謝と思いやり」を振り返る			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて			学んだことを日々の実践につなげましょう。	
	9	※学習分野の順番は4月1日時点での予定				
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	この講座では、点数による評価は行わない。 成績評価基準は、R評価のみとする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、科目単位を与えない。					

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢鳴 信輔		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	コンピュータシステム科 1年						
授業概要	自己分析や、業界、職種の研究を行い、求職票や履歴書が書けるようになる。 面接対策を行い、求職票受付面接や企業の面接を受けれるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		企業に内定する	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己分析(自分史の作成)-1			就職ガイドブックの内容を確認しておくこと		
	2	自己分析(自分史の作成)-2			自分史を考えておくこと		
	3	業界、職種の研究-1			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	4	業界、職種の研究-2			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	5	業界、職種の研究-3			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	6	業界、職種の研究-4			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	7	求職票の作成-1			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	8	求職票の作成-2			事前に希望する業界の研究をしておくこと		
	9	求職票の作成、面接練習-1			面接で話す内容を考えておくこと		
	10	求職票の作成、面接練習-2			面接で話す内容を考えておくこと		
	11	求職票の作成、面接練習-3			面接で話す内容を考えておくこと		
	12	求職票の作成、面接練習-4			面接で話す内容を考えておくこと		
	13	求職票の作成、面接練習-5			面接で話す内容を考えておくこと		
	14	求職票の作成、面接練習-6			面接で話す内容を考えておくこと		
	15	求職票の作成、面接練習-7			面接で話す内容を考えておくこと		
評価方法	この講座では、点数による評価は行わない。 成績評価基準は、R評価のみとする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、科目単位を与えない。						